

新健康協会では、新しい健康法を伝える「健康新聞」を毎月発行し、人間の持つ治癒力や適応力をお伝えしています。肉体的、精神的なことでお悩みの方もぜひ御一読ください。

健康新聞

発行所
発行人

新健康協会

〒813-0001

福岡市東区唐原6-7-1

TEL:092-661-1531

https://shinkenko.jp



次の御論文は、明主様(当協会の教祖)が、昭和二十五年に発表されたものであります。世界平和と心身共に健全な人間作りを目指す活動に御理解を頂ければ幸甚です。

直観の哲学

私は若い頃、当時もてはやされたフランスの哲学者、故アンリ・ベルグソン氏の学説に共鳴した事がある。その説たるや、今も尚思い出す事がよくあると共に、信仰上からいっても裨益するところ大なるものがあるから、ここに書いてみるのである。

氏の哲学のうち、その根幹をなしているものは万物流転、直観の説、刹那の吾の三つである。特に私の感銘を深くしたものは直観の哲学で、氏の説によると、こうである。

人間は物を見る場合、物そのものをいささかの狂いなく見る事は容易ではない。物の実体の把握は誠に困難である。これは何故であるかという事である。

元来、人間は誰しも教育、伝統、慣習等種々の観念が総合的に一つの棒のようになって潜在しているものであるが、それに気づく事はほと

んどない。これがため物を見る場合その棒が邪魔をする。例えば新宗教をみる場合でも、新宗教はみんな迷信邪教でありインチキであると決めてかかる事で、全く棒が妨害するのである。今日の社会人は、絶えず新聞雑誌から眼を通じて新聞人の意見が入ってくる。ラジオや人の噂からも耳を通して入ってくるという訳で、ますます棒が太く固く出来上がってくる。医者で治らない病気が信仰で治った奇跡をみても、そのままを素直に受け入れる事が出来ない。まず真先に疑惑を起こすのであるが、これが棒のためである。病気は医学で治るといふ観念が棒の中心をなしているからで、もし治ったとしたら、それは治る時節が来たからだというように、棒が種々の理屈をつけ、事実を彎曲してしまふという事は、我々の常に経験するところである。

このように、人間の陥りやすい過誤を訂正するのが直観の哲学である。即ち物を見る場合、棒に禍いせられない、虚心坦懐白紙の吾となるのである。それにはどうすればよいかという、刹那の吾となるのである。即ち、物を見た一瞬直感した印象こそ、物そのものの実体を把握して誤りがない。従って確かに難病が治った事実をこの眼で見たなら、そのまま信ずべきで、それが正しい見方である。

然るに、そんなはずはない、器械や薬で治ら

ないものが、眼に見えない空に等しいものなどで治る訳がないと思うのは、最早棒が邪魔しているからである。そこへ誰かが「それは迷信だ、そんな馬鹿な話があるものか」というのは、他人の棒が邪魔の協力者となったのであるから、この点大いに警戒しなければならぬのである。以上が直観の哲学のホンの概念である。

次に万物流転とは、一切は一瞬の間もなく流転しているという。例えば、昨日の吾と今日の吾とは必ずどこか違っている。いな五分前の吾と今の吾とも違っている。昨日の世界も、今日のそれは同一ではない。社会も文化も国際関係も勿論そうである。従って人間の見方も、変化そのものに対してもハッキリ見なければならぬ。それが正しい見方である。この理によつて、宗教も文化もその見方や考え方を変えるべきであるにかかわらず、何百何千年前の宗教の見方を通して、新宗教を批判するのであるから、正確な認識を得られるはずのないのは当然である。これが万物流転の説である。

浄霊体験記

2ページ
3ページ

- 痛みから救われ ますます元気に…
- 入会して64年 命のつぎ足し…
- 止まっていた心臓 奇跡をいたたく…
- 異常値のバセドウ病 浄霊で正常値に…

浄霊によって真の健康体となり、運命が向上し、幸せになられた方々の体験でございます。

結石の激痛

痛みから救われ
ますます元気に…



大分支部
釘宮瑞穂 (49)

私は、母のお腹の中にいる時から浄霊を受けて育ち、頭痛や風邪、交通事故で頸椎と腰椎を損傷した時等、様々なことが浄霊を受けることで楽になりました。

二〇一六年の六月頃、勤務中に腰の痛みが出てきました。最初は気にしていなかったのですが、段々と激しい痛みになり、左脇腹やそけい部、下腹部全体まで痛みだし、眩暈のような状態になりました。

私は会社を早退し、自宅に帰ることにしました。今にも倒れそうな状態でしたが、自宅まで帰ることが出来まし

た。すると帰った途端、強い悪寒と吐き気、大量の冷や汗と、激しい痛みがありました。尿意があるのに殆ど出さず、横になっても座っていても、身置き所のないつらさが続きました。そんな中でも、今までの体験から、浄霊で楽になる…という安心感がありましたので、不安にはなりませんでした。

しかし、自分で支部に行くことが出来なかつたので、夫に電話をして会社を早退してもらいました。日頃、具合が悪くても電話してこない私が会社に電話してきたので、夫も余程のことと思ひ、すぐに帰ってきてくれました。

その後、支部へ連れて行ってもらい、浄霊を受けました。おかげ様で先程のような激しい痛みは落ち着き、支部では座布団に座ることも出来ました。

支部から帰ってからも浄霊を受け、その日の夜には痛みが耐えられる状態となり、夜も眠れるほど楽になりました。

結石が楽に出た…

それから二日後、三日後と少しずつ排尿も通常に戻り、あの激しい痛みは何だったのかな…と思えるまでになりました。ある時、妹にその話をしましたら、「もしかしたら結石になつてい

るんじゃない?」と言われました。その後定期的「このまま行く」と、あの激痛がきそう…という状態になりましたが、日々浄霊を受けていたため、軽い症状で済みました。

そして八月頃、再び激しい痛みが出てきましたので、会社から帰宅し、自分で浄霊をしました。

明主様に御願いとすると、少し眠ることも出来、激痛を耐えることが出来ました。その後、夫から浄霊を受けると、その時にも有難いほど楽になりました。本当に感謝の気持ちでいっぱいでした。

それから二カ月程経った十月二十四日の深夜、寝る前にトイレに行こうと思ひ、トイレに座ると、何かが弾けるような感覚がありました。何だろう?と思ひながら水を流しましたが、流した後も茶色い物が残っていたので、再度流しましたが、まだ流れません。不思議に思ひ、ビニール手袋をして取り上げてみると、カチカチの五、六ミリの石のような物がありました。「もしかして、これが結石?」と驚き、またこの大きさにも関わらず、排尿する際に何の痛みもなかつたことに心より感謝申し上げました。床についても、おかげを頂けた興奮で眠ることが出来ませんでした。

尿路結石は「痛みの王様」と言われるほど、一般的にも大変と言われる状態を、浄霊で楽に済ませることが出来、本当に感謝でいっぱいでした。

また、結石が出る時も、激しく痛んだことが嘘のようにスツと出すことが出来、その後は痛むこともなくなりました。

私も夫も協会の会員ですので、家族同士で浄霊が出来る喜びと感謝は、言葉で表すことが出来ません。

おかげ様で翌年の一月には、次男も入会し、家族全員が会員になりました。家族共々、皆で毎日浄霊が出来、本当に幸せです。

この感謝と感動を少しでも多くの方にお伝えしていきたいです。誠に有難うございました。

(大分県大分市)

半身痺れ・心不全

入会して64年
命のつぎ足し…



坂田さんご夫妻

広島支部
坂田英治 (87)

来るように…と思ひ、この年の七月に入会しました。

それから結婚もし、妻にも浄霊の話をしました。最初は浄霊に対して良い印象はなかつたようですが、産後の体調不良の時に浄霊をすると、体調が良くなり、妻も昭和四十五年十二月に入会しました。おかげ様で、私が月に一日から二日間ほど、高い熱を出す時があつたのですが、妻から浄霊を受けると、熱も下がりましたので、寝付くこともなく仕事も続けられました。

七年前(平成二十八年)には、半身が麻痺したような状態になり、体を起こして座ろうとしてもひっくり返つてしまひ、思うように体が動かせませんでした。この時、息子も既に会員になつておりましたので、妻と息子が交代で浄霊をしてくれ、わずか二日間ですっかり動けるまでに快復出来ました。本当に有難かつたです。

昭和三十四年、当時二十三歳だった私は体調が悪く、様々な薬を飲んでいました。しかし体は痩せていく一方で、薬屋さんからも「もう薬を飲むのはやめなさい」と言われました。

私は体調を良くしたいだけでしたが、薬も飲めず、どうしたら良いか分からなくなつていました。

そんな時でした。職場の上司から「浄霊というのがあるから試してみたら…」と声を掛けてもらいました。私は浄霊が何なのか分かりませんでした。もう薬も効かない状態だったので、とにかく浄霊を試してみようと思ひました。

驚いたことに、浄霊を受けると体調の変化を感じました。私は嬉しくなり続けて浄霊を受けると、日に日に体調が良くなつていくのが分かり、私は「浄霊しかない…」と思ひました。その後浄霊を続け、自分でも浄霊が出

るようになっていくのが分かり、私は「浄霊しかない…」と思ひました。その後浄霊を続け、自分でも浄霊が出

(広島県広島市)

婦人科、心停止

止まっていた心臓
奇跡をいただく…

台湾・台北支部
孫菁鴻 (50)



私は二十年前に友人に誘われ、一度浄霊を受けたことがありましたが、その時は何も特別な感じはなく、続きませんでした。

二〇一三年に母が突然背中中の痛みを訴え医療にかかりましたが、一年も経たずに他界してしまい、その時の悲しみから立ち直ることが出来ずにいました。その上、私自身も長年背中中の痛みを抱えていて毎週リハビリに通いましたが治らず、婦人科の出血の問題も医者に診せても原因が見つからず大きな不安を抱えていました。

二〇一五年、友人の勧めもあり、半年間浄霊を試してみようと思いい、毎週三回、台北支部で浄霊を受けました。ありがたいことに二、三カ月で婦人科の問題は解決し、長年の悩みだった背中中の痛みも和らいでいき、心の悲しみや不安はいつの間にか消えていまし

た。そして浄化作用や浄霊の原理について理解出来るようになり、翌年入会してからは、他の人を浄霊するようになりました。人の役に立つことが嬉しく、休みの日は支部に行くようになりました。

一つの奇跡…

二〇二〇年二月十三日の夜七時頃のことです。弟(当時41歳)の奥さんから電話で「主人が家で倒れて息もなく、心臓も止まっている」と言われ、一瞬頭が真っ白になりましたが、明主様に御願いを思いました。すぐに支部に御守護の御願いをしました。急いで、弟のところへ駆けつけた後、救急隊が到着し、弟に電気ショックを与えましたが何も反応がなく、すぐに病院へ運ばれました。私は病院の救急救命室の外からずっと明主様に御願いを弟に向かって浄霊をしました。

すると有難いことに、すぐに一つ目の奇跡をいただき、弟は命を取り留めることが出来ました。医者は「心臓が十三分以上も止まっていたので脳への影響が大きく、このまま意識が戻らない可能性もあり、万が一意識がもどっても四歳程度の知能になるかもしれない、楽観的には考えられない」と言っていました。私は一心に明主様にお継りするだけで、他のことは考えずに浄霊をしました。

すると翌日、すぐ明主様から二つ目の奇跡を頂きました。なんと意識が戻り、こちらが話すことを理解出来るようになった。その後も面会が許される限り浄霊をしました。五日目にコロナウイルス蔓延のため、面会時間が制限されましたが、七日目には普通病棟に移

ることが出来、続けて浄霊をすることが出来ました。

一週間前に起きたことがまるで夢だったかのように、意識も完全に戻り、今までと変わらない弟の姿を見て、信じられない奇跡を頂いたことに感動しました。そしてその三日後には退院出来、弟と一緒に支部に行き、明主様の大きな御守護に感謝申し上げます。

今回、明主様の絶大な救いの手で弟を死の直前から救って下さいました。私の感謝は本当に言葉で表せません。この素晴らしいお力でたくさんの方が救われますように、これまで以上にお手伝いさせて頂きたいと思えます。

(中華民国台湾省・台北市)

浄化作用

人間には体内の毒素(=汚物)を排除して健康を促進しようとする働きがあります。これを称して自然良能力と言います。

例えばカゼの場合、体内にあってはならない毒素を溶かすために熱が出ます。溶けた毒素がハナやタンとなって排せつされるので体の中が掃除され、清浄化されます。

その毒素排除の過程を「浄化作用」と言います。ですから浄化作用は、熱や痛みを伴うので苦しみがありますが、体を健康にする大切な清掃作用でもあるのです。

バセドウ病

異常値のバセドウ病
浄霊で正常値に…

フランス・パリ支部
ヴァレリー・ギヨーム (55)



私は二〇〇四年にバセドウ病にかかりました。私は近くの新健康協会の出張所に通い、よく浄霊を受けました。一時は痩せて疲れも出しましたが、浄霊を受けることで徐々に快復していき、九カ月間で乗り越えることが出来ました。

二〇〇八年の春、再びバセドウ病になりました。この時近くの出張所は閉鎖中で、パリにある支部までは遠かったため、お医者さんに診てもらいました。すると血液検査で、抗体の数値が二十七と出ました。この当時、抗体の数値が以下は「正常」。一から一・五は「病気の疑い」があり、一・五以上では「病気がかかっている」と見なされていましたので、私の数値は「異常」でした。しかし医療治療では良くならず、精神的につらく、自分が普通ではないような気がしていました。

た協会の出張所が再開され、再び浄霊を受けに行くことが出来るようになりました。その頃、一日六粒の錠剤を処方されていたのですが、よく浄霊を受け、血液検査の結果が良くなり、四カ月後には二錠になりました。抗体の数値もその年の夏には十一になっていました。十二月には抗体の数値は一・二になり「病気の疑いあり」レベルの数値にまで下がりました。そして二〇一一年三月、ついに薬を完全に止めることが出来ました。なんとという安心感！即座に私は解放されたように感じ、全てが順調で、本当に良くなった気がしました。その後もよく浄霊を受けました。

同年六月下旬、抗体の数値は〇・五になっていました。つまりバセドウ病はなくなり、私の甲状腺は「正常」に戻ったのです！

私はこれからも浄霊を続けていき、この喜びと感謝の気持ちを多くの方に伝えたいと思います。

心より感謝御礼申し上げます。
(フランス・パリ)

浄霊

浄霊は、大自然のエネルギーであり、病気やあらゆる問題で苦しんでいる人、悩んでいる人を救う方法です。

浄霊によって魂は清浄化され、肉体が健康になっていきます。

まずは試されてみてはいかがでしょうか。

自然農法

明主様の御教え

無肥料栽培

私は今無肥料栽培に就き解説するにあたって先づ根本理論から説いてみるが、抑々土とは何ぞやといふ事である。言ふ迄もなく人間生命を保持すべき最重要なる五穀野菜を生育すべく、造物主が造られたものに違いない。従つて土そのものの本質は神秘幽玄なるものであつて、現在までの唯物科学によるも到底窺知し得ない事は論をまたない感である。然るに今日迄の農業は不知不識邪道に陥ちいりたる結果土の力を蔑視し、一切の作物をより良く生育するには糞尿又は化学肥料等の人為的肥料に依らねばならぬと思ひ、今日に到つたのである。

然るに以上の如き結果は、土壌の本質は漸次退化変質し、土壌本来の生育力は衰耗するに拘わらず、それに気が付かない為、農作不良の原因は肥料不足に因ると錯覚し益々肥料を施すから土壌の力は愈々鈍化しそれを補わんとして肥料をより施す結果、今日の如く日本の國土は瘦地化し、農耕者の口を揃えて嘆ずる処である。

自然農法とは自然を尊び、愛情をかけて育てること、自然力を生かす農法です。

自然農法体験談



山鹿支部 小池祐生 (68)

私が住んでいる熊本県菊池市七城町砂田は、昔からおいしいお米の産地ではありますが、砂まじりの土壌のため、肥料の流れ出るのが早く「秋落ち」という秋になつて収量が落ちる田んぼでした。それでも、計算に強い父は緻密な計算を行い、収量を上げることを夢に努力していました。

そして昭和55年、一つの転機が訪れました。私が新健康協会を知り、山鹿支部に行つた時のことです。当時、支部におられた先生から「農薬や肥料を使わない自然農法をぜひやってみてくれませんか」と言われました。その頃、田んぼは父が主となつてしていましたので、父に相談するとその意見に賛成してくれ、20アール(約600坪)の田んぼから自然農法を始めることになりました。最初は草取りに追われて苦勞の連続でしたが、合鴨農法などを経て少しずつ除草が進むようになり、自然農法の面積を増やしていきました。すると、これが父の生きがいとなり、80歳まで現役でバリバリと働いていました。

おかげ様で現在は230アール(約6900坪)の田んぼ全てを自然農法で栽培しており、一番年数の長い田んぼは40年になります。毎年、頑張つて育つ稲に寄り添いながら、「稲が育つお手伝い」をしております。多くの方に安心・安全のお米をお届けしたいとの思いで、自然農法の普及にも努力していきたいです。誠に有難うございました。

美の世界

美によつて人間の情操を高め、生活を豊かにし、人生を楽しく意義あるものにすることができます。

横山大観 《松》

本作は日本画家として高名な横山大観によるもので、小品ですが、白砂青松の景が扇面にまとめられています。大観は一八六八(慶応四/明治元)年、水戸藩士の長男として生まれ、一家で上京したのち、東京府立中学校、私立東京英語学校を経て、一八八九(明治二十二年)年に開校したばかりの東京美術学校に入学。現在の東京藝術大学の前身であり初めて日本にできた官立の美術学校の第一期生となります。

美校で何より重要だったのは、画家としての指針を示す師、美術史家・思想家である岡倉天心と出会つたことです。天心は西洋絵画を取り入れ、新たな伝統美術を創出することを先導し、美校での教育を組み立てました。大観は天心の理想を実現しようと励み、卒業後も行動をともにしていきます。一八九八(明治三十一年)年には日本美術院の創立に加わり、菱田春草らと新しい日本画の実践を目指し、輪郭線によらない大胆な無線彩色描法で空気を表現することを試みましたが、朦朧派と揶揄されるようになり、しばらく苦しい時代を送ります。

その後インドやアメリカ、ヨーロッパを訪れて視察や展覧会を行つたり、日本美術院の茨城県五浦への移転に伴い転居したりするなど、苦境のなかでも活動を続け、一九〇七(明治四十一年)には第一回文展に審査員として出品し、美術界での存在感を示しました。天心没後も日本美術院を再興し、美術院を中心として活躍します。つまり、大観はそれまで継承されていたいろんな流派の書画を超え、西洋の技術や思想までも統合し、新しく「日本画」というものが成立するその地点に

た画家だといえます。

初期の展覧会出品作では故事に取材したテーマを多く描いていた大観ですが、大正、昭和期に至ると装飾的な花鳥山水の大作が増えます。「芸術における作品の対象は自然と人生であつて、春夏秋冬とか月雪花とかもしくは喜怒哀楽の外何物も無いのでございます」、あるいは「絢爛の美を表現した花鳥画も、絢爛といふ視覚以上の、より奥底の精神的要素を存するのが日本画の特異な点である」と述べているように、大観にとつての花鳥画は、形象の美しさではなく、四季の自然に触れることを悦びとする私たちの心を象徴するものなのです。

解説 松田愛子



晴明会館

「暮らしと花鳥風月」前期展
期間…6月1日(木)〜12月13日(水)

※晴明会館お問い合わせ ☎092(661)1535

健康新聞についてのお問い合わせは
092(661)1531まで